

令和元年度 岐阜県立土岐紅陵高等学校

学校運営協議会（第1回）議事要旨

- 1 会議名 土岐紅陵高等学校運営協議会（第1回）
- 2 開催日時 令和元年5月23日（木）13:30～15:30
- 3 開催場所 土岐紅陵高等学校会議室
- 4 参加者 委 員 飯田 明子 土岐市立西部こども園長
伊藤 策雄 土岐市立西陵中学校長
大野 千春 土岐紅陵高等学校PTA副会長
加藤 千洋 土岐市社会福祉協議会
加藤 智代子 下石女性の会会長
佐口 裕子 下石小学校PTA母親委員長
佐々木 啓子 土岐商工会議所
土本 泰 至学館大学入試広報担当
古川 直利 土岐市立下石小学校長
山路 峰弘 土岐市まちづくり推進課長

県教育委員会 高橋 宗彦 教育総務課教育主管

学 校 側 中川 敬三 校長
日比野 隆行 教頭
加藤 健二 教務主任
河村 拓士 生徒指導主事
高田 昌史 進路指導主事
加藤 智子 活性化推進部長
- 5 会議の概要（協議事項）
 - (1) 開会
 - ① 県教育委員会挨拶
 - ② 校長挨拶
 - ③ 委員自己紹介
 - ④ 学校からの出席者自己紹介
 - (2) 会長・副会長の選出
 - ・ 会長に土本委員、副会長に山路委員が選出された。
 - (3) 会長挨拶
 - (4) 議事
 - ① 令和元年度学校運営の基本方針等について
 - ア 校長からの説明
 - ・ 会議資料に基づき、学校経営計画、教育課程、学校の組織編成について説明した。

イ 質疑応答

ウ 学校運営の基本方針等の承認

- ・ 全会一致で承認された。

② 今年度の取組・進め方について

- ・ 今年度の取組、会議の進め方について校長より説明した。

④ 学校運営等に関する意見

- ・ 今年度の方針については理解できた。生徒とのコミュニケーションに基づく生徒理解や、SNS の問題点を強調した点も共感できる。
- ・ 自己肯定感の醸成や、自信や誇りを持たせる指導など、分かりやすい目標やマニフェストが掲げられていて参考になる。
- ・ 進路指導については、ポートフォリオを作成し、入学前から進路目標を設定して、それを毎年引き継いで、最終的に生徒自身が自己評価できるようになるとよい。
- ・ 企業説明会への生徒の参加や地元企業への就職に感謝したい。
- ・ 子どもが高校生になると、小中の頃より子育てへの関心が薄くなり、学校行事への保護者の参加率が悪くなる傾向にあるが、もっと学校と関わることを望まれる。例えば PTA の役員である保護者が他の保護者に対し学校の取組を積極的に伝えることも重要だと思われる。
- ・ 勉強も大事だが、人間関係のつくりかたやコミュニケーション能力を伸ばし、相手の立場に立って考えられるような人間を育てていただきたい。
- ・ 幼児教育から高校教育までを通して、継続的にコミュニケーション能力を育てる教育を行うことが大切である。
- ・ コミュニケーション能力は学校だけでなく家庭でも指導することが大切である。
- ・ コミュニケーション能力は社会に出てからも大切である。誰にも相談せずに突然やめる若者もいる。また、指示された事しかできない者も多い。自主的に動ける能力を育てるような勉強も必要である。
- ・ 言葉で伝えることが苦手な子や、言われたことしかできない子が多い。その場に応じて考える力や、上司・同僚とコミュニケーションをとる能力を育てるために、家庭、学校、社会の3つが連携していくことが大切である。
- ・ 社会に出たら一人で生きていかなければならない。自己肯定感、コミュニケーション能力が大切である。人生経験や地域とのかかわりも大切である。
- ・ 学校で取り組んでいることの情報提供をどんどんやっていただきたい。市役所や報道機関を活用するとよい。

(5) 閉会

6 会議のまとめ

学校運営の基本方針については、昨年度の学校運営協議会で出された意見を取り入れた修正がなされており、全員一致で承認された。

今回の協議会では、コミュニケーション能力の育成についての意見が多く出された。社会に出るからは学力以上に大切な能力であり、本校でも重視しているが、家庭や地域との連携の大切さも指摘された。本校での新たな取り組みの一つが今年度取り組む演劇ワークショップであり、今年度中に予定されている ICT の導入も使い方を工夫すれば、授業での対話の機会の増加につなげることも可能である。

本校では総合学科への改編以来、その特徴を生かしてコミュニケーション能力の育成やキャリア教育に力を注いできたが、その重要性を再認識するとともに、これまで以上に地域や家庭と協力し合いながら取組を発展させていくことが大切である。